

☆ご自由にお持ちください☆



Wilhelm・Conrad・Röntgen
ヴィルヘルム・コンラート・レントゲン
1895年 X線発見

放射線だより

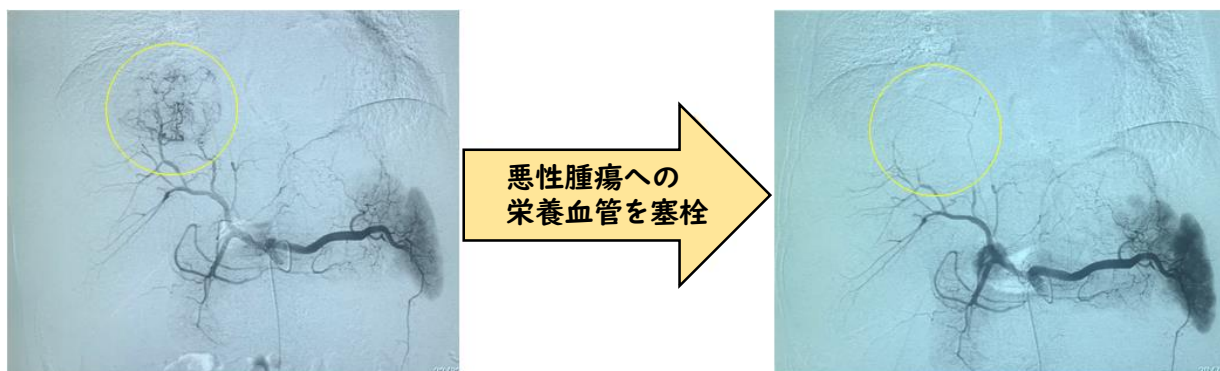
2022年1月
No.5 (毎月発行)
担当：馬場俊明

from Radiation House

当院では肝がんの治療法の1つとして血管造影装置を用いた肝動脈化学塞栓療法を行っています。

血管造影検査では足の付け根や腕の動脈から細い管(カテーテル)を用いて目的の血管まで挿入し、造影剤という薬剤を血管に注入しながらX線を用いて連続撮影を行います。

肝動脈化学塞栓療法(TACE)は撮影された画像から悪性腫瘍に栄養を送っている血管や出血部分を特定し、腫瘍の栄養血管から抗がん剤を注入したり、血管を塞栓したりして治療することが可能となります。これらを血管内治療(IVR: Interventional radiology)といいます。



治療時間に個人差はありますが比較的短い時間で終了し、体に大きな傷をつけずに低侵襲な治療が行えるため、数日間で退院が可能となります。一方で造影剤の使用によるリスクや放射線被ばくといったデメリットもあります。

外来または入院後に担当医または担当する放射線科医より治療についての説明があります。
不安や疑問点がありましたらご相談ください。(文責：若杉)



マンモグラフィ検査について

マンモグラフィ検査とは乳房専用のX線撮影のことで、乳房を板で挟み圧迫して薄く伸ばした状態で検査を行います。どの方向からでも病変がわかるように、左右斜め方向、上下方向に乳房を挟んで撮影を行います。

なぜ圧迫するのか？

- ・ 乳腺の重なりが少なくなり、病変を見つけやすくなります
- ・ 身体や呼吸による動きを防止できます
- ・ ボケが少なく鮮明で診断しやすい画像になります
- ・ 乳房厚を薄くすることで、被ばく線量が低減します
→乳房厚が1cm薄くなると被ばく線量は約50%減少します

圧迫することで痛みを伴うこともあります。
検査中は力を抜いてリラックスすること、月経前の乳房が張っている時期を避けて検査することをおすすめします。

マンモグラフィの有用性

マンモグラフィは、乳房を触ってもわからないようなしこりを作らない乳がんを白い影（腫瘤）や白い顆粒（微細石灰化）として描出することができます。

悪性のものだけでなく良性のものも見つかりますが、マンモグラフィは早期の乳がん発見に有用な検査です。

